

令和 5（2023）年度 資源評価調査報告書（新規拡大種）

種名	アカマンボウ	対象水域	太平洋中・南部
担当機関名	水産研究・教育機構 水産資源研究所 浮魚資源部、千葉県水産総合研究センター、神奈川県水産技術センター、宮崎県水産試験場	協力機関名	

1. 調査の概要

千葉県（2000～2021年）および宮崎県（2006～2022年）で主要港の水揚量が集計されている（図1、表1）。2020～2022年の宮崎県まぐろ延縄漁業による水揚日隻数当たりの漁獲量（CPUE）を算出した（図2）。

2. 漁業の概要

本種は主にまぐろ延縄漁業で混獲される。千葉県では2008年に196トン漁獲されたが、それ以降は減少し、2022年には10トンになった。宮崎県でも2009年に42トン漁獲されたが、それ以降は減少し、2022年には2トンになった。神奈川県での漁獲実績は不明である。宮崎県まぐろ延縄CPUEは2020年の値が最も高く、2021年と2022年の値は同程度であった。

3. 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道太平洋岸から琉球列島近海に分布する。海面近くから水深 500 m までに生息する。
- (2) 年齢・成長：全長 2 m（益田ほか 1985）、体重 144 kg に達する（Jordan 1905）。
- (3) 成熟・産卵：情報なし。
- (4) 被捕食関係：食性は肉食性で、イカ、オキアミ、小魚などを捕食する（Choy et al. 2013）。

4. 資源状態

千葉県と宮崎県のアカマンボウの漁獲量は減少傾向である。生息域を網羅した長期間の漁獲量情報がないことから、太平洋中・南部全体の資源水準や動向の判断は現状では困難である。

5. その他

継続的なモニタリングが必要である。

6. 引用文献

益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫 (1985) 日本産魚類大図鑑 東海大学出版会

Jordan D.S. (1905) A guide to the study of fishes. Vol 1. Holt and Co, New York

Choy C., E. Portner, M. Iwane and J. C. Drazen (2013) Diets of five important predatory mesopelagic fishes of the central North Pacific. Marine Ecology Progress Series, **492**, 169-184.

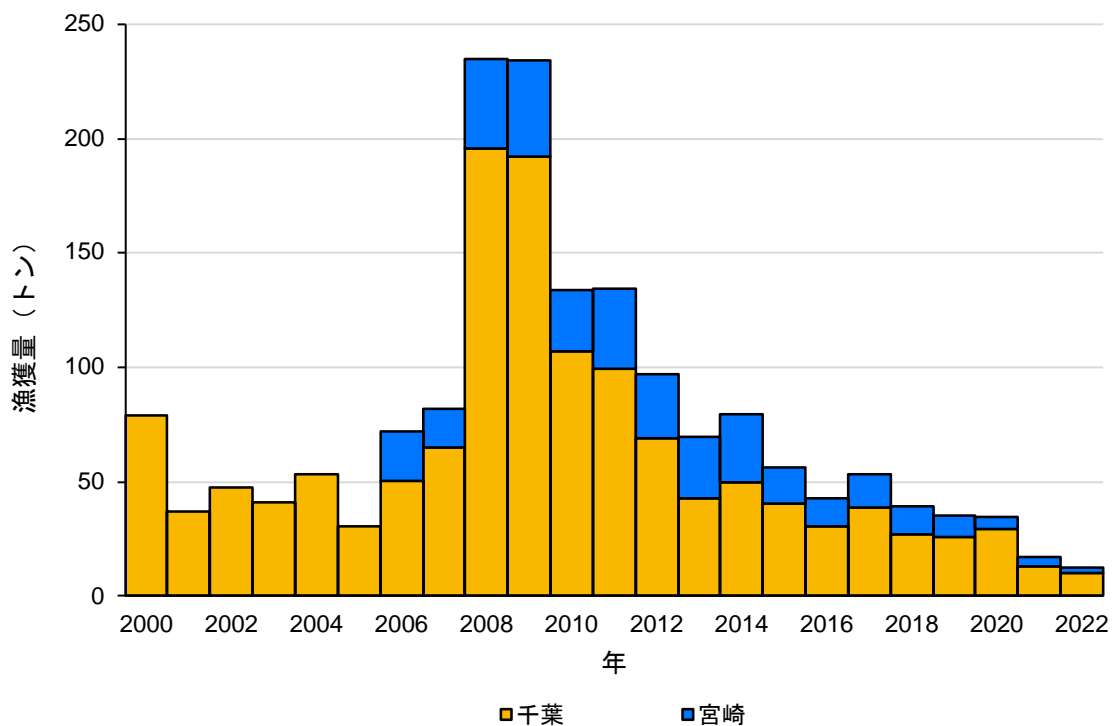


図1. 千葉県（2000～2022年）と宮崎県（2006～2022年）の主要港におけるアカマンボウ漁獲量（トン）

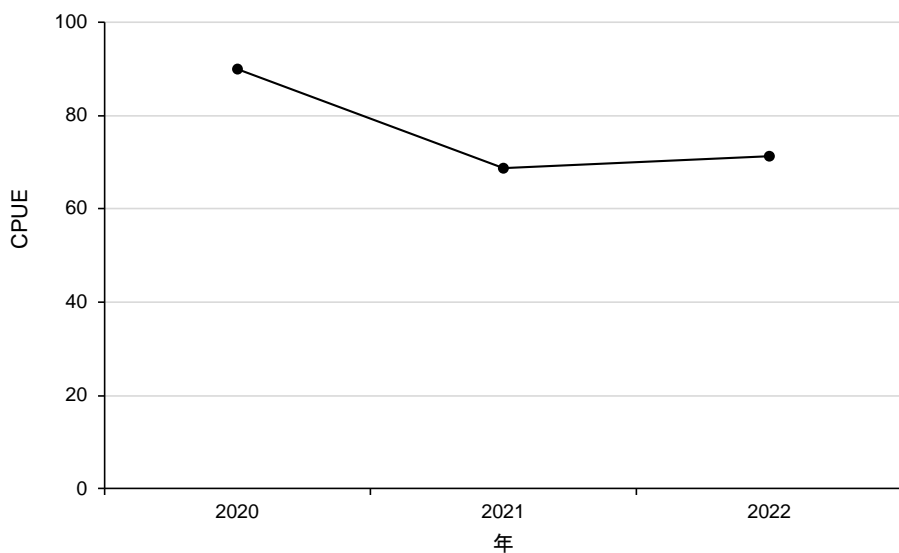


図2. 宮崎県（2020～2022年）のまぐろ延縄による水揚げ隻数当たりの漁獲量（kg）（CPUE）

表 1. 千葉県（2000～2021年）と宮崎県（2006～2022年）の主要港における漁獲量（トン）の年変化

	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
千葉	79	37	48	41	53	30	50	65
宮崎							21	17
合計	79	37	48	41	53	30	72	82
	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
千葉	196	192	107	100	69	43	50	41
宮崎	39	42	26	35	28	27	30	16
合計	235	234	134	135	97	70	79	56
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
千葉	30	39	27	26	29	13	10	
宮崎	12	15	12	10	5	4	2	
合計	43	53	39	35	35	17	12	